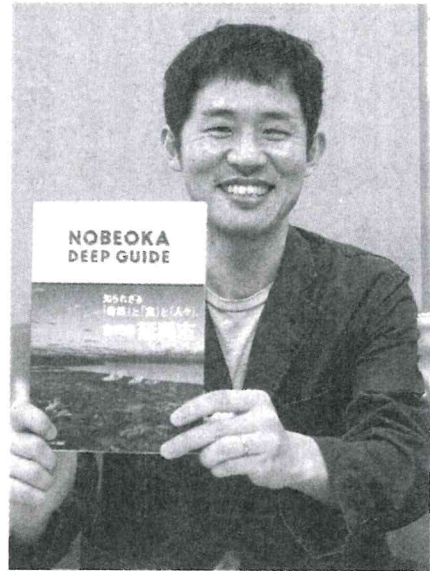


# 延岡の奥深い魅力

延岡市の奥深い魅力を発信するガイドブック「NOBEOKA DEEP GUIDE」を手にとりするエンクロスの中林奨館長



ネットにはないローカルネタが満載  
コアな延岡情報なら「夕刊デیلیー」

延岡市の奥深い魅力を発信するガイドブック「NOBEOKA DEEP GUIDE」を手にとりするエンクロスの中林奨館長

夕刊デیلیー新聞の掲載ページ。同新聞はエンクロス館内に  
ある新聞閲覧コーナーでも人気で、写真は館内にいた同新聞  
の愛読者を集めて撮影されたという



## エンクロス企画ガイドブック出版

### 都会ではあり得ない新鮮食材のスーパードパーなど満載

都会ではあり得ない 知っているようで知らない延岡市の奥深さ、魅力を発信するガイドブック「NOBEOKA DEEP GUIDE」(A5サイズ、79ページ)が、このほどネコ・パブリッシング(本社・東京都)から出版された。企画した同市駅前複合施設エンクロスの中林奨館長(35)は「延岡の良さは何と言ってもローカル。感度の高い旅好きの人の、行き着く果てをイメージしました。ぜひ手に取って巡っていただきたい」と話している。

ネコ・パブリッシングは、エンクロスを運営するカルチュア・コミュニケーションズ・クラブ(本社・東京都)のグループ企業。ガイドブックは、グループのネットワークの強みを生かし、地域の情報発信の取り組みの一つとして、開館から半年たった昨年10月に発案された。

今年3月に編集者、ライター、カメラマンが同市を訪れ、撮影と取材をスタート。掲載する自然、食、人などは▽中林館長▽埼玉真

出身▽移住者の視点▽地元を愛する市民の視点▽初めて同市を訪れた編集者らの視点の三つから抽出した。「しがらみは一切なし。本当は限られた人で楽しみたい、載せてほしくないという場所も、無理を言って教えていただきました」ちなみに「ネットにはないローカルネタが満載」の見出しで、夕刊デیلیー新聞も掲載されている。延岡のありふれた日常を体感したいなら夕刊デیلیーで紹介されている。価格は税込み1080円。エンクロス館内の薦書店をはじめ、インターネットショップ「アマゾン」や各書店で購入できる。なお、7月21日には代官山薦書店(東京都)で出版記念イベントが開かれる予定。問い合わせはエンクロス(☎延岡20・3900)へ。



延岡水郷鮎やな

食事棟

売り上げ過去最高  
6968万円

2万人超来場市外客51% 漁獲量 平年並み

延岡観光協会

延岡観光協会が昨年のあゆやなシーズンに延岡市大貫町の「かわまち交流館」を店舗として運営した延岡水郷鮎(あゆ)やなの食事棟売り上げは約6968万円と過去最高だったことが、21日にあった同協会の通常総会で報告された。交流館の完成で従来からの課題が解決され、来場者から大きな支持を得たことなどが要因と分析している。

あゆやな食事棟は2017年度まで同協会が仮設棟を設置して運営。18年度から延岡市が常設化した建物「かわまち交流館」を同協会が指定管理者として運営。延岡水郷あゆやなは同協会の伝統あゆやな保存観光事業として取り組んでいる。

昨シーズンのあゆやなは10月1日にオープン。従来の仮設棟で課題となっていたトイレやハエ、室温などの問題が、交流館の完成によって一挙に解決。やなの完成が長雨や台風で11月3日へずれ込んだ影響もカバーし、売り上げは15年の6723万円を上回った。

12月2日までの営業で来場者数は2万1626人。市外からの来客が51%に上り、誘客の大きな資源であることを示した。あゆやなのアユ漁獲量(11月3〜30日)は332キで、例年並みに戻った。理由は、荒れた河床を整える工事を行ったことで右岸側までのうま組みが可能になり、魚道以外からアユが逃げなくなったことを挙げた。また、延岡湾での稚アユ採捕をやめたことで天然アユの個体数が増加したことなどもその理由に挙げている。

交流館、交流広場、緑地広場を含めた「かわまち広場」の利用は132件で、利用人数は1万758人、トイレ利用など間接利用は2万7374人だった。

300年以上続く伝統漁法を継承できるように

するため、今年度も伝統あゆやな師の高橋生矢さんのノウハウを写真や映像などで記録する事業を継続。また、大瀬大橋上流側に開設されたハーベキュー広場も管理することになり、今後も利用ニーズに応えられるよう運営していくとしている。